



7年前に開催された第5回日本農業と食を考えるシンポジウム。南出弁護士は「流通米の市場流通を抑制する気持を農産者が持つべきだ」と述べた。

ワクチン利権に走る者は悪魔

「悶え神」になろう！

四面楚歌を楽しく行く

(4面からのつづき)

そして、すでにばらまかれていた一兆円については、製薬会社の株式取得、出資、貸付などの方法で世界的規模のワクチン産業に投資され、その見返りは巨額なものとなります。このことを公言しているのですから、これは「謀略」といふよりも、明らかに人類に対する「宣戦布告」です。

ビル&メリン財団から金が既にばらまかれ、そして今回の武漢ウイルスワクチンでは、桁違いの資金がファイザー社などに投資されて、これからも様々な方面にばらまかれます。

おそらくは、このビル・ゲイツ発言を支持するワクチンの製薬会社、政治家、官僚、全政党、

南出善久弁護士のプロファイル
昭和25年京都市生まれ。京都市立堀川高校卒業。子宮頸がん予防ワクチンについて「民族根絶やしワクチン」と警告。日本文学入前「危険」を本導入前から「危険」を

「宣言」を諷刺する天皇請願を行う。弁護士としては、誰も引き受け手がないような難しい弁護や訴訟を数多く担当してきた。

また、「粗米備蓄」による国内の食糧自給などに張する「自立再生論」を提言する。平成21年には「児童相談所による児童拉致事件訴訟」で内海聡医師と原告の弁護を行う。児童相談所による児童拉致事件訴訟の背景

を娘に勧めたことを後悔して自責の念に苛まれる母親は、その娘を介護しながら一生苦しむので救いようのないこんな悲惨な事態を無視し続ける政治家や官僚、医療関係者、そして、このワクチン利権に走る者は悪魔です。

全身痙攣が止まらず 勧めた母親、一生苦しむ

まき散らします。これは、喉から手の出るように広告収入を求め支払はれる事実上の「口止め料」となり、マス・メディアは薬害についてメディアの使命を完全に放棄して沈黙するどころか、バラエティー番組のコメンテーターと称する製薬会社の走狗に成り果てた医療関係者や自称学者などしかメディアに露出させず、反ワクチン派を完全に閉め出し、政府と製薬会社の走狗になつた者たちでワクチンを推奨して喧伝し続けているのです。

家とされるロスチャイルドのジャック・アタリは、ビル・ゲイツ発言に呼応して、優生学的見地から「馬鹿ども処するため」に予防接種で殺せばいいんじゃないか」との論文まで発表し、パンデミックを恐れる愚かな民に、「これが治療法だ」と救いの手を差し伸べてワクチンを接種させ、喜んで屠殺場に自ら進んで向かう者などしかメディアに露出させず、反ワクチン派を完全に閉め出し、政府と製薬会社の走狗になつた者たちでワクチンを推奨して喧伝し続けているのです。



京都で開催したシンポジウムに出席した南出弁護士

このことを認めて、種痘の禁止を行ったのです。しかし、わが国はこの時期はGHQによる軍事占領下であり、GHQが敗戦国に対する報復と懲罰を行うかのように、あへて有害無益な種痘の続行を強要しました。

また、英国では、種痘接種が広まってきたから天然痘の流行が始まり、その流行のため2万2081人が亡くなりました。その後、英国の接種禁止から遅れること28年後の昭和51年になってようやくわが国でも種痘の接種が廃止されたのです。

年間20万人が死亡
いま注目すべきは、令和2年よりもワクチン接種が始まった令和3年の死亡者が62,671人増加していることです。しかも、令和4年2月から4月までの死亡者増加は5万人です。このペースだと、年間20万人の死亡者の増加となり、これがワクチン禍の実態なのです。

こんな殺人ワクチンの接種を直ちに中止させる

政府関係者からの内部告発が必要

これからは、製薬会社とそのエージェントの組織は、ワクチンの危険性を指摘する言論にはまともに反論せず、物量作戦としてテレビ・コマーシャルなどによる「情報爆弾」を雨あられのように

種痘もインチキ
ジェンナーの種痘もインチキであることが明らかになってきました。平成25年、モンゴルで採取された馬痘ウイルスのゲノム解析をした結果、

ワクチンを受けた多くの人の多くの命が失われたのである」というのは細菌学者であるアリス・テイテス・アクラモンテの言葉です。昭和4年8月6日にTIME誌に掲載された論文で、この「彼」とは、野口英世のことです。

水俣病も悲惨な事件であつたものの、水俣病の場合は、それが解明されて公害病認定がなされて一応の解決の方法に導びかれましたが、今回のワクチン禍は、「薬害公害病」と認定されるまでに途方もなく長い道のりを要することになるでしょう。

その野口英世が千円札の肖像画にしたことは、野口を讃へることによって殺人ワクチンを推進することを意味します。野口という功名に走つて善悪を垂れ流した極悪人を推奨することは、新型コロナワクチンの危険性を隠蔽することを確信犯として行っていることなのです。

水俣病が解決の方向に向かったのは、これに寄り添って著作活動をして水俣病を広く知らしめる広告塔の働きをしてきた作家・石牟礼道子の貢献だけではありません。それは、細川一(はじめ)の画期的な貢献によるものでした。

子宮頸がんワクチン禍のアナフィラキシーショックの症状の多くは、まさに有機水銀中毒の水俣病の症状のように、全身痙攣が止まらないものです。

ここには書き尽くせないために、公開されています。反ワクチン訴訟の訴訟記録や私の論文が掲載されている国護護持塾のHPを参照いただければ幸甚です。

水俣病も悲惨な事件であつたものの、水俣病の場合は、それが解明されて公害病認定がなされて一応の解決の方法に導びかれましたが、今回のワクチン禍は、「薬害公害病」と認定されるまでに途方もなく長い道のりを要することになるでしょう。

水俣病が解決の方向に向かったのは、これに寄り添って著作活動をして水俣病を広く知らしめる広告塔の働きをしてきた作家・石牟礼道子の貢献だけではありません。それは、細川一(はじめ)の画期的な貢献によるものでした。